

【所属名：教育委員会文化振興課】

【会議名：平成 21 年度第 2 回糸魚川市文化財保護審議会】

会 議 録

作成日 平成 22 年 3 月 19 日

日	平成 22 年 3 月 8 日	時間	13:30 ~ 16:00	場所	本庁 203 会議室
件名	報告(1) 史跡等の整備・修繕について (公開) 報告(2) 解説板・標柱等の修繕について (公開) 報告(3) 「根知山寺の延年」の公演について (公開) 報告(4) 埋蔵文化財の調査について (公開) 報告(5) 相馬御風宛書簡の刊行と糸魚川歴史民俗資料館の企画展等について (公開) 報告(6) 小正月行事の開催状況について (公開) 報告(7) 文化財防火デーの関連事業について (公開) 報告(8) 「根知山寺の延年」用具類の整備について (公開) 報告(9) 糸魚川駅構内のレンガ造検修庫の記録保存について (公開) 報告(10) その他 (公開) 協議(1) 視察研修の成果について (公開) 協議(2) 「文化財保存活用計画」の策定について (公開)				
出席者	【出席者】 9人 金子会長、利根川副会長、山崎(正)委員、小川委員、松野委員、 山崎(英)委員、濱田委員、西沢委員、吉田委員 【欠席者】 1人 野紫木委員 【事務局】 文化振興課 村井課長、横田補佐、木島係長、山岸主査、小林主任主事、木村主任主事 高津主事				
	傍聴者定員		人	傍聴者数	人
会議要旨 1 開会 (13:30) 【事務局】 村井課長あいさつ 【出席者】 金子会長あいさつ 本年度最後の回であり、報告事項など沢山あるが1年間保護活用を振り返ってご確認いただきたい。文化財保存活用計画についても忌憚のない意見を述べていただきたい。また、今回行なわれた視察研修では若林邸の隣接する資料館で御風作詞の歌の展示があり、遠い地でのつながりなど改めて知ることができ有意義な研修であった。 2 報告 (1) 報告事項 (1)、(2) 【事務局】 資料No.1、資料No.3について説明。					

資料No.2 について説明。

質疑応答

【委員】松本街道について、白池周辺の土地所有や施設管理はどのようになっているか。

【事務局】ボッカ宿跡周辺の土地は市であり、その他は個人所有である。施設管理等については農林水産課のほうで地区等に委託している。

【委員】橋立ヒスイ峡の園路、展望広場などはどこの管理になるのか。

【委員】橋立のヒスイ峡について看板が沢山設置しているが警告板などはあるのか。

【事務局】橋立ヒスイ峡の看板は上流と下流側に指定範囲を含んだ看板と警告の看板がある。管理については下流園路が市道のため青海事務所で、上流側が当課で管理している。

【委員】御風宅について資料を見ると壁がアルミ塀などの材質となっているが木材は使わないのか。

【委員】防火対策で木材使用は認められず、使用した素材については配色など含め木材と比べても遜色のない仕上りのものにした。

(2) 報告事項 (3) (4)

【事務局】 資料No.4 について説明。(その後委員が補足説明とお礼を述べた。)
資料No.5 について説明。

(3) 報告事項 (5) (6) (7)

【事務局】 資料No.6 について説明。
資料No.7、No.8 について説明。

質疑応答

【委員】小正月行事については、資料のほかに実施があればできることなら全部教えていただきたい。

【事務局】さいの神は火を扱うため消防のほうに申請許可が必要となるため、実施状況は把握している。

【委員】「真光寺の鳥追い」など、過疎・少子化によってできなくなったものは残念であるが、西海小学校などで引き継がないものか。

【事務局】「真光寺の鳥追い」は昨年度記録映像事業により、内容や歌の調子等を記録保存している。

【委員】文化財防火デーについて、文化財持ち出しの訓練があるが内容はどのようなものか。

【事務局】擬似的にダンボール箱を3つほどソリに載せて運び出した。

【委員】日光寺お堂の仏像は足がボルトで固定されているはず。諸事情で難しいだろうが、本物を持ち出しできるような体制、訓練をしないといざという時の対応が難しい。

(4) 報告事項 (8) (9)

【事務局】 資料No.9 について説明。(その後委員が補足説明とお礼を述べた。)
資料No.10 について説明。

【委員】衣裳用具類、踊りの型については昔のままで引き継がれているものか。

【事務局】記録映像を作成して継承している。

【委員】「根知山寺の延年」は踊りが指定で用具類が指定ではなく、その都度新調、修繕

を行なってきた。

【委員】弓の舞いについては明治頃からずっと型が引き継がれているようである。用具については昭和33年の東京講演の頃よりのものが数点あるようだが、ほかには補助事業などで新調、地区の人が手縫いで修繕をしているものもある。

(5) 報告事項 (10)

【事務局】中村秋夫さんの資料類について、古文書類は現在資料館で預かり目録作りを行い、市史編纂資料と突合せを行なっている。個人資料や中村氏がライフワークとしていた廻船資料類は遺族の意向も有り当方では預からなかった。

3 協議

(1) 視察研修の成果について

視察研修参加委員が、各自の感想を述べた。

(2) 「文化財保存活用計画」の策定について

【事務局】平成22年度から平成23年度にかけて、かねてより要望していた文化財の保存活用計画に関する予算について内示があった。計画策定にあたり、「文化財保存活用計画策定委員会」を立ち上げる予定。委員の内訳としては、大学教授、県指導員、文化財所有者、文化財保護審議委員、県文化財パトロール員など10名で、年4回程度の会議を予定している。委員会開催にあたって保存活用計画案を作成したいが、その前に審議委員のみなさんに日頃より文化財保護について感じていることをどんなことでもよいので、ご意見を頂戴したい。

【委員】白山神社所有の文化財について、公開すると傷むし、多くの人に見て欲しい気持ちもあり、保存と公開のバランスが難しい。

【委員】文化財の公開にあたっては、ただ単純に公開するのではなく、文化財に絡めた物語がないと見学者の心をひきつけられないと思う。ジオサイトやその他の文化財の複合活用が重要。

【委員】シーボルトコギセルについて。あまり公開すると乱獲に遭うが、珍しい貝なので公開したい気持ちもある。活用の際には気をつけたい。

【委員】他の市町村等の文化財保存活用計画についてお聞きしたい。

【事務局】意外とこのような計画を策定している市町村はあまり無く、当市と同じような状況の先行事例はなく、都市計画や町づくりの計画で文化財の保護を取扱っている事例がいくつかある。県内では上越市と佐渡市が現在策定中のようなものである。

【委員】基本的な考え方としては、市内の文化財を集中して保存し、公開は各所で行うということになるのか。

【事務局】一般的には、文化財を所有管理する保存会は、高齢化などにより保存会の維持自体も厳しい状況が見られることから、早い段階で市の所有にしたほうが管理の面で良いと言われている。

【委員】管理と公開のバランスをとるべき。民具などその土地にあってこそという資料はあるし、保存会など頑張って保存しようという団体があるのであればバックアップすべきである。

【委員】災害対策や資料の劣化のことを考えても、文化財の集中管理がよいのでは。個人や集落での管理が無理なときは市教育委員会に管理を依頼する。

【委員】文化財の定期的な点検などについても取り決めに策定してほしい。毀損や盗難、滅失状況などを点検し、「糸魚川市の文化財」なども定期的に更新してほしい。

【委員】鬼舞の伊藤家資料についても保存活用の対象にして欲しい。

【委員】（文化財の集中管理について）白山神社の船絵馬など信仰資料の集中管理には問題が伴うのでは。

【委員】形になっていない民謡や、わら細工の製作などの伝統の技術なども保存活用の対象にして欲しい。

【委員】文化財フィールドワークを開催してはどうか。その際材料として昔おしらせばんに掲載のあった文化財レポートをまとめたり、「糸魚川市の文化財」を利用してみるなどどうか。

閉会あいさつ

【委員】たくさんの意見が出たので、事務局で参考にしてほしい。以上で閉会としたい。

－閉会－